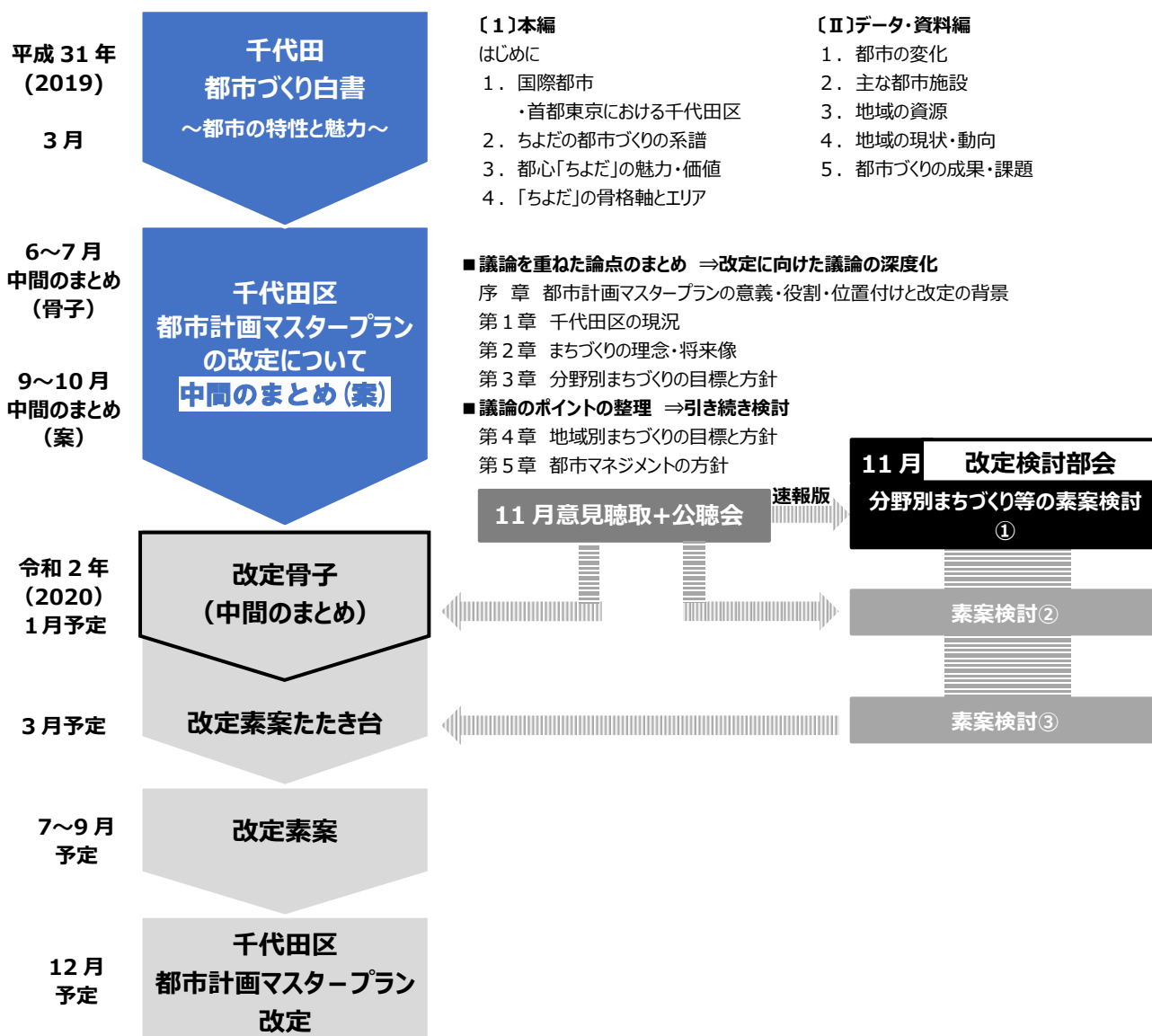


千代田区都市計画マスタープラン改定 分野別まちづくり等の素案検討①

【A. 共通の基礎資料】

■ 都市計画マスタープラン改定の経緯と素案検討のステップ（予定） ■



共通の基礎資料（目次）

1. 論点
2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋
3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

□土地利用の基本方針	3
〔分野1〕豊かな都心生活を実現する住環境の創出	11
〔分野2〕緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出	17
〔分野3〕都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり	23
〔分野4〕道路・交通体系と快適な移動環境の整備	31
〔分野5〕多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	37
〔分野6〕災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	41
〔分野7〕環境と調和したスマートなまちづくり	45

土地利用の基本方針

1. 論点

- 地区ごとの人口の集積の考え方（政策的な誘導のあり方）
- 地域課題と地域で許容（もしくは誘導）する開発規模のあり方とその手法
 - ・地域の特性・課題と既存の制限維持、緩和的手法の導入等の有効性をふまえた戦略（建物の適正な更新、生活支援機能の充実、交通結節機能の充実など）
 - ・誘導手法としての限界（容積インセンティブ）と新たな考え方・手法のあり方
 - ・地域特性による一定程度の上限の必要性（交通、防災、エネルギー等の面）

※「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- 基本エリアについて
 - ・ゾーニング単位であるべき将来像を作り上げるべき
 - ・地域ごとの特性を強みとするまちづくり
- 麴町・番町・富士見
 - ・「落ち着きと文化を感じられる住環境」の堅持を明記してほしい
 - ・エリアを楽しむ回遊の魅力を記述してほしい
 - ・番町地域（人口が比較的少ない抑制的なまち、地区計画の尊重、中層・中高層の記述）
- 秋葉原・神田・神保町
 - ・まちの文脈にそった開発の誘導によるまちの連続性・回遊性の向上は喫緊の課題
 - ・日常生活をおくる住民の目線の欠如
 - ・街区単位の機能更新・街区再編・共同化の誘導
 - ・秋葉原のコンセプト（コト消費、積層する文化、神田川沿いの再開発、景観誘導及び土地利用規制・誘導施策、地区デザインコード、非ジェントリフィケーションを担保する都市計画的規制・誘導）
 - ・神保町・小川町地域での法定再開発事業の積極的な活用
- 大丸有地域
 - ・イノベーションの創出・成長・発信の視点
 - ・文化・芸術機能の強化
- 骨格構造
 - ・「神保町地域」「神田公園地域」「万世橋地域」「大丸有永田町地域」に都心居住を誘導
 - ・「和泉橋地域」にホテルを誘導
- 都市骨格軸
 - ・大手町～神田の回遊性の向上（人道橋等）
 - ・日本橋川の川端の有効活用を推進するビジョン

- ・大手町川端緑道の整備により、賑わいの連続性の強化
- ・銀座～上野の動線、イメージの統一
- ・丸の内～秋葉原～上野の連続性
- ・東京ドーム～浅草橋までの水上交通
- ・桜田通りの「都市機能連携軸」への位置づけ
- ・環境創造軸を区界を越えて南部まで拡大（芝公園、増上寺）

●拠点

（神田錦町）

- ・これから発展していくべきエリア、まちづくりの重点エリアとして神田錦町を「拠点」に位置づけ
- ・神田錦町エリアで拠点的な大規模開発によるランドマークを形成、回遊性の向上
（大手町～神田錦町～御茶ノ水、神田駅～神田錦町～神保町） "
- ・神田警察通りの整備のような軸の整備と並行し、大規模開発による拠点整備を推進

（神田駅西口）

- ・神田駅西口周辺を「高度機能創造・連携拠点」にも位置づけ
- ・神田駅周辺の交通結節拠点の範囲を駅中心に神田駅東側へ拡大
- ・神田駅西口地区の街区再編（大街区化）を伴うまちづくり（緑化空間、オープンスペースの創出）

（秋葉原）

- ・「辻」としての秋葉原、神田川沿岸の整備・再開発（新しいコンテンツの発信地）
- ・秋葉原地域を様々なチャレンジが可能な特区として認定
（ライブエンターテイメント、デンキ・メディア・コンテンツ、研究開発、実証実験等）
- ・秋葉原、万世橋及び神田川沿岸を新しい交流の場として育成

（神保町・小川町・御茶ノ水周辺）

- ・神田小川町の文化を残し、これまで以上に魅力・賑わいのあるまちにしていくための施策
（例：多様な文化の結節点となるまちのランドマークにふさわしい施設の整備）
- ・小川町交差点付近を交通結節拠点に指定（地下鉄3路線の結節）
- ・御茶ノ水駅周辺、神保町駅周辺を高度機能創造・連携拠点として位置づけ
- ・神田小川町エリアの抱える課題に対する積極的なまちづくりへの関与

（その他の地域）

- ・地域をつなぐ拠点づくりが必要
- ・「市ヶ谷駅における交通結節拠点の強化」（東京駅や池袋、新宿駅とは異なる発想で強化・開発、地域性への配慮）（半蔵門駅、麴町駅とあわせて）
- ・「永田町・霞ヶ関地区」の高度機能創造・連携拠点の範囲の拡大（東側祝田通り周辺）
- ・日比谷公園の南側一帯のエリア（祝田通り西側の霞が関一丁目地区から日比谷周辺地区）を個性ある界限及びエリア回遊軸として位置づけ

●戦略的先導地域

- ・神田錦町三丁目南部東地区を含む神田警察通り沿道を戦略的先導地域に位置づけ
- ・神田駅西口周辺を戦略的先導地域に指定すべき。
- ・番町地域、富士見地域に戦略的先導地域を採用、大規模なパブリックスペースを創出
- ・市ヶ谷駅、麴町駅等の生活拠点性のある場、日本テレビ通りの戦略的先導地域への設定

●土地利用の基本方針

- ・容積率緩和による弊害の説明を追加、昼間と夜の歪な人口構成を是正する視点
- ・「状況等が変化した場合には、地区計画の変更も視野に入れる」という文言を追加
- ・「都市開発諸制度等を活用した都市開発等による地域の魅力向上と課題解決」の表現を追加
- ・キラコンテンツ誘導等の重点施策を軸とした拠点創出
- ・建築・開発の誘導だけでなく「規制」の視点
- ・千代田区の持つ歴史・育んできた魅力を失わせることのない機能更新（プロコンを意識）
- ・規制緩和による反省点を踏まえるべき

（開発誘導に関する考え方）

- ・容積率緩和のみに頼らない地域の将来を見据えた持続可能なしくみづくり
- ・開発から抑制へ、量的緩和から質的充実へ／量的緩和から量的規制へ
- ・規制緩和の見直し、容積減少ダウンゾーニングを検討するべき
- ・公開空地による容積率割り増し等には反対
- ・少子高齢化社会の到来が予想されている状況で、建築物の高層化によるオフィスの増加の必要性への疑問

- ・千代田区全体で人口はもっと増えてよいと思う
- ・ソフトの充実を図る取組みの誘導
- ・住環境だけでなく公共サービス・教育環境への影響の懸念
- ・耐震化
- ・緑地空間・オープンスペースの創出（例：ワテラス）（防災の視点）
- ・エリアマネジメント活動支援や必要なスペースの確保
- ・地域コミュニティの存続を可能に
- ・開発に伴う駅及び駅周辺のバリアフリー化・オープンスペースの創出（麴町駅番町口）
- ・環境性能・省エネ性能を増したエリア開発が重要

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
社会動向と 都心の魅力 ・価値	<input type="checkbox"/> モノの消費から「コト」の消費への指向変化 <input type="checkbox"/> 高いレベルの磁力：居心地の良さ、かっこよさ、本物感など <input type="checkbox"/> 特徴の際立ったまち（スパイキー化）→人材・企業の局所的集積
多様性と 都市機能	<input type="checkbox"/> 産業構造の変化に対応したオフィス機能のあり方（シェアオフィス、リノベーション等） <input type="checkbox"/> 住まい方、住宅の使い方の多様化（シェアハウス、民泊） <input type="checkbox"/> オープンノベーション、スタートアップ <input type="checkbox"/> 地域特性に相応しい Mixed - Use <input type="checkbox"/> 地区計画の見直し（まちを取り巻く状況の変化への対応）
機能更新	<input type="checkbox"/> 老朽化した市街地の機能更新（+ 歴史に培われた地域資源の保存との調和）
公共空間	<input type="checkbox"/> オープンスペース＝「都市の余白」→防災面での活用 <input type="checkbox"/> まちの魅力や価値を高める公共空間（活用） <input type="checkbox"/> 多様な空間活用のスタイル（暫定的利用、公共空間と民有地の一体的管理・活用等）
社会基盤	<input type="checkbox"/> 都市づくりを通じた低炭素・省資源型社会形成（面的エネルギー、再生可能エネルギー等）
地域に応じた 戦略	<input type="checkbox"/> 地域特性をふまえた面的な都市計画の戦略（+ 合意形成手法） <input type="checkbox"/> 大規模開発、個別建替え、リノベーション等の最適化と相互連携

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果）

土地利用 目標：きめ細かい土地利用を進め、住と職の調和したまちに

居住機能を回復するため、「住宅付置・開発協力金制度」の運用や、個別建替えと住宅床確保を誘導する地区計画を地域特性に応じてきめ細かに適用してきました。

都市開発諸制度の活用などにより、都市再生を進め、業務機能の質的な高度化、商業、文化・交流機能、住機能等多様な機能が調和する複合市街地への転換を進めました。

●改定の視点

都市とまち・エリアのデザイン

◇エリアの広がりの中で、まちの魅力の創造・継承を意識したトータルなデザインのもと、相互の価値を高めあう建築・開発等を誘導

（個別の建物の規模やデザインに加えて、まちの文脈、界隈性や文化、生業、そこに宿る様々な力と可能性、ひとの目線と活動・移動、将来備えるべき社会基盤や都市機能、公共空間の使い方などを意識）

●土地利用の展開の方向性

これまで千代田区では、江戸・東京の遺産やこれまで積み重ねられてきた界隈の文化を継承しながら、区全体を見渡した視点で拠点整備や建築・開発の相互連携が進み、都心を豊かにする都市基盤や、多様な機能・空間などが創出されてきました。同時に、地域では、地区特性に応じた適正な個別建替えを誘導するきめ細かなルールを定め、街並みや環境の維持・形成のしゅみを展開してきました。

今後はこうした土地利用や建築・開発の誘導の効果や課題を見極めながら、規制の緩和と地域貢献のバランスをとりつつ活用されてきた既存の都市開発諸制度や都市再生のしゅみだけでなく、多様性、先進性、強靱・持続可能性を強く意識し、良好な都心の生活環境を効果的に誘導していける手法の研究を進めて、わが国を牽引する都心の高度で活発な活動との調和を図る土地利用を目指します。

【展開の方向性】

●都市骨格軸や拠点の育成と魅力ある街並み・空間のトータルなデザインと活用

●多様性、先進性、強靱・持続可能性を見据えた都市機能・都市基盤整備の誘導

●大規模な機能更新と個別建替え、リノベーション等が相互に連携し、まちの文脈にそった再生を戦略的に展開

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目 標】 きめ細かい土地利用を進め、住と職の調和したまちに

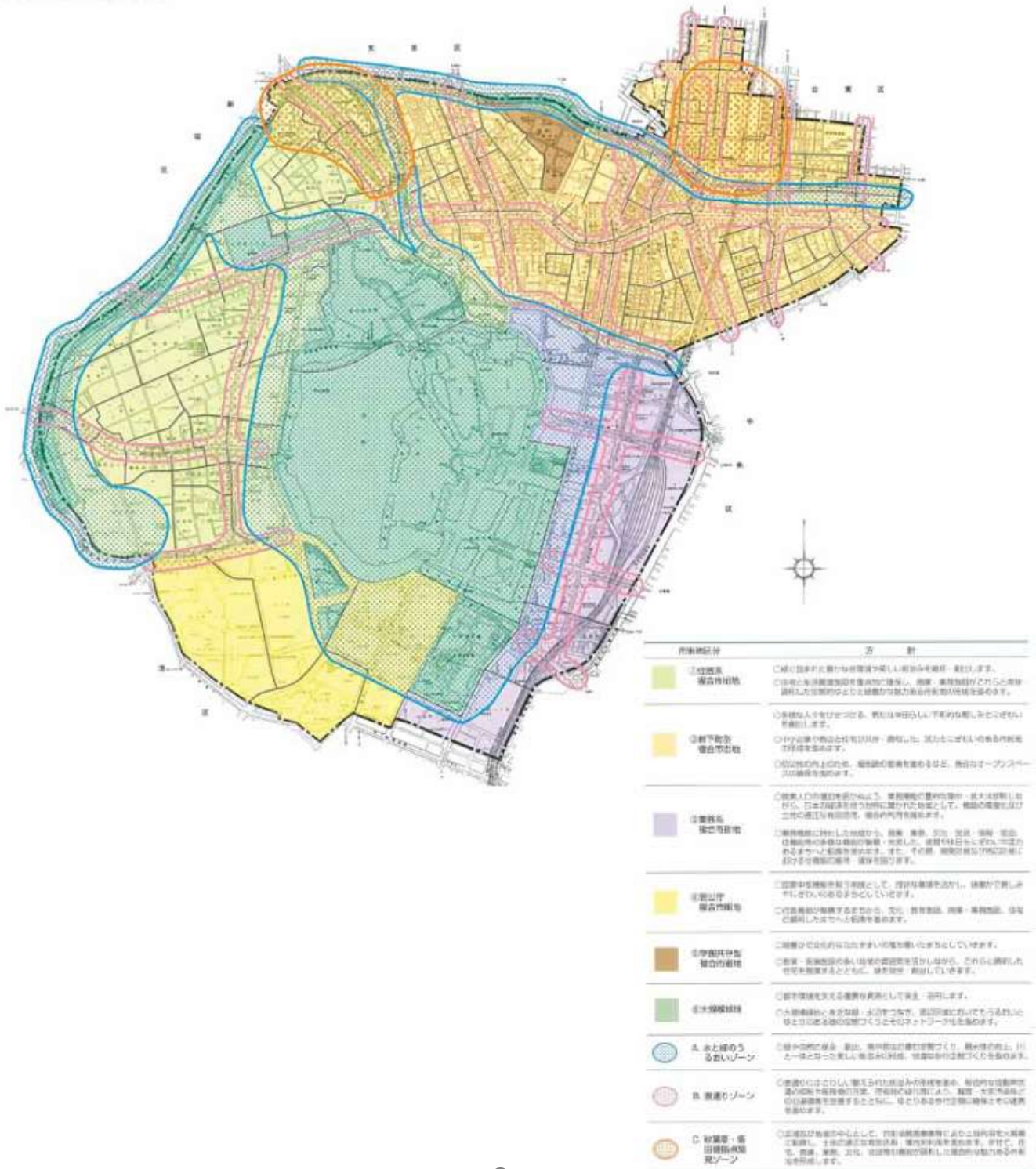
方針 1： 無秩序なオフィス化を抑制し、住みやすく住み続けられるまちとするよう、住宅とオフィス・店舗が調和した複合市街地を形成する

方針 2： 地球の環境に配慮しつつ、誰もが安全に快適に過ごせるまちとする

方針 3： 地域ごとの資源や魅力を活かし、個性の光るまちをつくる

方針 4： 地域の参加を得ながら、きめ細かく、ゆっくりとまちを更新する

土地利用の方針図



分野 1

豊かな都心生活を実現する住環境の創出

1. 論点

- 来るべき人生 100 年時代の社会とまちづくりをどのようにイメージすべきか。
 - ・定住人口 5 万人回復を達成
 - ・若い世代・ファミリーが暮らしやすいまちへの進化
 - ・喫緊の課題としての（後期）高齢者の急増への対応
 - ・生活支援機能等の誘導とその手法（開発諸制度や地区計画のあり方等）
- 地域の実情を踏まえた居住誘導、多様性のもたせ方など、考え方の違い
 - ・住まい、住まい方 + 働き方 + まちでの活動スタイル
（ファミリー向け集合住宅、加齢対応住宅
⇒⇒⇒ 外国人居住、シェア空間での居住、小スペースの居住、短期滞在等）
- 多様性の中で育まれる交流、文化、コミュニティのイメージ
 - ・多様化が進むこととまちの魅力・価値創造の関係
（住む人、働く人、訪れる人、滞在し活動するひとなど）

※「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・「市街地再開発事業や共同化の推進によるファミリー世帯向け住宅の供給」を推進するというビジョン
- ・住居を支える都市機能
- ・高齢者・子どもが安心して住むことができるための具体策

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
人口回復と高齢化に伴う新たな課題	<input type="checkbox"/> 人口、子育て世帯、高齢者・障害者の増加に伴う生活支援機能 <input type="checkbox"/> 高齢者層の住まいのあり方
住宅・住環境の課題	<input type="checkbox"/> 住機能を誘導する現行都市計画、その他の制度のあり方 <input type="checkbox"/> 商業地域における集合住宅供給の急増が地域に及ぼす影響への対応 <input type="checkbox"/> 住宅の低炭素化・省エネ化・スマート化・エネルギーの自立分散化 <input type="checkbox"/> マンションの管理適正化、老朽マンションの耐震化 (+ 実態把握)
都心生活の多様性	<input type="checkbox"/> 多様な住まい方・滞在のスタイル <input type="checkbox"/> 既存ストックのリノベーション <input type="checkbox"/> シェアエコノミー <input type="checkbox"/> 利便性を求める居住などさらに多様化する住まい方 <input type="checkbox"/> 新たなビジネスのプラットフォーム (老朽ビル等の再生) <input type="checkbox"/> ワークプレイス (シェアオフィスやコワーキングスペースなど) <input type="checkbox"/> 生産性が高まるオフィス環境 (バイオフィリックデザイン)
新しいスタイルのコミュニティ	<input type="checkbox"/> 職住以外の場における居心地の良い公共空間、交流空間 (サードプレイス) <input type="checkbox"/> プレイスメイキング <input type="checkbox"/> ひととまちが様々なきっかけ・スタイルで関わりあう都心 <input type="checkbox"/> 新しいカ・多様な価値が生まれ、育っていく都心

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

住宅・住環境整備 目標：多様な人が住む、心ふれあうまちに

主な成果	今後の論点
<p>ファミリー世帯向け住宅を中心に住機能を立体的に誘導するため、市街地再開発事業や共同化を推進するとともに、住宅付置・開発協力金制度の運用により住宅の供給を増加させました。</p> <p>また、地区計画のきめ細かい決定・運用により、居住環境の維持や住宅床の増加を図りました。</p> <p>この間、住宅基本計画を改定し、住宅の量の確保から住環境の整備、多様な住まい方の推進を目指すよう住宅政策の方向性を転換し、「住宅付置・開発協力金制度」を見直し「住環境整備推進制度」へ移行しました。</p>	<ul style="list-style-type: none">◇地区計画や開発諸制度活用における住機能誘導のあり方◇集合住宅の居住世帯割合が約9割を占める千代田区において、機能更新期を迎える高経年マンションの増加と居住者の高齢化、いわゆる「二つの老い」への対応◇ファミリー世帯の居住増加に伴う教育、子育て支援関連施設のニーズの高まりへの都市づくり面からの対応（開発に伴う機能誘導など）◇神田地域等、商業・業務地における集合住宅の増加に伴うまちの賑わい機能の低下◇シェアハウス・シェアオフィス等シェア空間の増加など、職住以外の都市生活の多様化への対応

●改定の視点

次世代の魅力ある「都心生活」

- ◇人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化に対応した高質な居住環境の充実
- ◇都心の資産、文化、ポテンシャルを活かした創造的な都心生活の場の創出とコミュニティの力の醸成

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

都心生活の多面的な魅力の向上、多様なスタイルでつながるまちとひとが持続的・創造的なコミュニティを育てていく

- より質の高い都心の居住スタイルと環境の創造
- 多様な人々がライフスタイルに応じて住み続けられる居住機能
- まち、ひとのつながりが深まる持続的・創造的なコミュニティ形成

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目 標】 多様な人が住む、心ふれあうまちに

方針 1 : 子ども・高齢者・障害者のだれもが住み続け、ふれあえるまちとするよう、多様な人のための良質な住宅を確保する

方針 2 : まちづくりと連携して住宅を確保するとともに、住宅からオフィスへの転用を防止する

方針 3 : だれもが心地よく安心して暮らせるよう、太陽の光、風、緑、水辺、街並みを大切にするとともに、日常生活の利便性、安全性を高める

方針 4 : 人や文化・芸術とふれあう場を充実させ、心豊かに、都心生活をより楽しめるようにする

分野 2

緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出

1. 論点

- 緑・水辺、空間の保全・創造・活用の体系的・戦略的な方針の組み立て
 - ・骨格的な環境創造軸、公共の緑・水辺空間、まちなかの緑・空間
- 都市計画的手法を活用した緑・水辺の充実・高質化のあり方
 - + 民が担う緑・空間（大規模なもの～まちなかの小さなもの）
 - ・河川沿いの機能更新 + 水辺に顔を向けた街並み + 空間の連続性 など

「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・川沿いに緑を増やし、歩いて楽しいまちにしたい
- ・日本橋川の川端の有効活用を推進するビジョンを示してほしい。
- ・大手町川端緑道の整備により、賑わいの連続性を強化すべき。
- ・オープンスペース・公園の活用
（ボーダレス、エイジレス、ジェンダーレスな質の高い交流、集える空間、コミュニティの形成、地域の拠点、防災の拠点）
- ・オープンスペースの創出（民間の活用、街区整理等）
- ・良質な空間の創出に「空」の視点を追加

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
エコロジカルな都心環境	<input type="checkbox"/> エコロジカル・ネットワーク (生態回廊) + 自然や多様な生物との共生 + 水辺や風の道 <input type="checkbox"/> 濠や河川等の水質 <input type="checkbox"/> 身近な緑の地域偏在 + 界隈緑化
公共の緑と水辺の空間	<input type="checkbox"/> 千代田区の1人あたり公園面積 (日比谷公園等を除くと充足していない) <input type="checkbox"/> 街路樹の維持管理 (倒木の危険性等 + データ蓄積)
都心生活の質を高める空間	<input type="checkbox"/> 空間の使い方 + 都心生活の価値 <input type="checkbox"/> 過ごしたい (居心地のよい) 空間 / 愛される場所 (+「人の目」の増加による防犯) <input type="checkbox"/> 多様な人が自分の居場所と感ずる空間 (住む人、働く人、観光客等) <input type="checkbox"/> 多様な文化やスポーツが楽しめる公園 + 東京五輪のレガシー (スポーツカ) <input type="checkbox"/> 夜の水辺空間 + 賑わい (施設)
グランドレベルの空間の連続性	<input type="checkbox"/> 外部空間との景観的つながり (屋上緑化、壁面緑化等) + 緑の評価軸 (緑視率等) <input type="checkbox"/> グランドレベルの活用、民間の緑 + 公共空間の連携
空間の活用と維持管理 (マネジメント)	<input type="checkbox"/> 都市計画が担うマネジメント <input type="checkbox"/> 空間の管理・運営 (費用や担い手、過ごしたい空間づくり等) <input type="checkbox"/> 「見る緑」や「活用される緑」への公開空地の進化 <input type="checkbox"/> 質的に充実した緑のオープンスペース (維持管理や利活用、居心地の良さなど) <input type="checkbox"/> 空間をいつ、誰が、どのように使うのかという観点が重要 <input type="checkbox"/> 使いたい人が使える運営 (マネジメント主体と利用者が乖離しない活用)
環境を豊かにする制度活用	<input type="checkbox"/> 機能更新 + 緑や水辺の環境創造の誘導 <input type="checkbox"/> 千代田らしい企業貢献 (生物多様性や障害者支援等、様々なメニュー) <input type="checkbox"/> 市民緑化認定制度の活用 (良質で利活用されるオープンスペースの創出) (固定資産税・都市計画税減免のインセンティブと区民への還元のあるあり方) <input type="checkbox"/> SEGES (緑の認定制度) <input type="checkbox"/> 公共空間評価と Potential Public Resource (公共空間利活用)
区民等の緑とのかかわり	<input type="checkbox"/> 緑の維持管理活用、生物多様性推進に向けた市民参加 <input type="checkbox"/> 街路樹等の適切な維持管理のための合意形成

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

緑と水辺の整備 目標：緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに

主な成果	今後の論点
<p>開発事業にあわせて、官民が連携し良好な緑と水辺の空間を創出してきました。併せて、地区計画や緑化推進要綱の運用により敷地内や屋上への緑化を推進し、緑被面積が増加しました。また、千鳥ヶ淵緑道や、大手町川端緑道など、緑豊かな水辺の歩行者ネットワークの拡大を図りました。</p> <p>区の花さくら再生事業や道路・公園等のアダプトシステムの促進を通じて緑化推進の普及啓発を図りました。</p>	<p>◇土地の高度利用が進む都心にあって、多くの人に利用される質が高く、居心地の良い緑の空間や身近な緑の創出</p> <p>◇道路・公園・河川等と公開空地等、官と民の緑・空地が連携した公共空間領域の拡大</p> <p>◇水辺空間の質的向上や舟運等のネットワーク化、利活用の推進による水都東京の再生</p> <p>◇生物多様性にも配慮された都市の緑の空間の創出</p> <p>◇拠点開発間の緑のネットワークの拡大によるまちの魅力向上</p> <p>◇市民緑地認定制度等の活用による民間の緑の空間の利活用</p>

●改定の視点

居心地のよい空間の多様性

- ◇皇居等の大規模な緑地や身近な緑と水辺と連続性の高いオープンスペースの創出
- ◇時代にあった価値を生む多彩な空間（場）の創出と活用、活動の発展

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

皇居を中心とする豊かな緑と水辺のネットワークが拡がり、居心地のよいオープンスペースが創出・連携され、多様な人々が豊かに過ごしている

- 千代田区ならではの緑と水辺の価値、その継承とさらなる充実
- 都心生活の価値を高める多彩な緑と水辺空間の再生・創出と活用
- 平常時・非常時（災害時）の多面的な空間活用
- オープンスペースから考えるまちづくり

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに

方針1：今あるかけがえのない豊かな緑と水辺の環境を守る

方針2：身近な緑と水辺をつくり、つなげ、自然に親しめ安らげる場をつくる

緑と水辺の整備方針図



区 分	整備方針
都市計画公園・緑地 その他の大規模緑地	大切に保全するとともに、生物の棲む場所としての機能を強化します。
緑の骨格	重点的に緑化を進めます。
河川・濠	歴史性を活かしつつ、緑化と水質の浄化及び生物の棲める環境づくりを進めます。また、水辺のプロムナード整備等の親水機能・レクリエーション機能の向上、橋詰め・橋桁などの水辺を感じられる場としての緑化を進めます。
公共施設 区立施設 区立小中学校 官公署など 郵便局 公開空地	敷地の緑化及び屋上・バルコニー・壁面等を活用した建物の緑化を進めます。
緑豊かで街並みの美しい、憩いの歩行者空間を整備する通り 商業施設の賑やかさとコミュニティを育むふれあいの歩行者空間を整備する通り	緑化を積極的に進め、周囲の緑とつながるような緑地空間を整備します。
区界 JR駅 地下鉄出入口	

分野3

都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

1. 論点

○境界性の魅力創造に向けたエリアの戦略

- ・境界の魅力を積極的に融合させるべきエリア
- ・エリア回遊軸の移動を楽しむエリア
- ・まちづくりを戦略的に先導していくエリア
例) 神保町～神田小川町、秋葉原・万世橋周辺 など

○都市計画で意識すべき「神田らしさ」「下町らしさ」

- ・グランドレベルの賑わいの連続性
- ・小さな歴史資源や路地空間等の風情を活かすべきエリア
(大街区の開発で空間創出や防災性を高めるエリア等との関係、相互連携等)
- ・都市計画・まちづくり分野での展開イメージ、効果的手法

「中間のまとめ」(案)への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っています。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・「境界を楽しむための空間づくり」には地域をつなぐ拠点づくりが必要
- ・地域の特性を活かし、守り、その価値を追求すべき
- ・様々な都市機能の誘導とそれらの共存への懸念
(居心地よい、文化資源・ゆとりある空間、職住近接のライフスタイルなど)
- ・容積緩和による建物更新とまちが受け継いできた佇まいへの影響への懸念
- ・「都心の風格と景観の魅力」と「豊かな都心生活を実現する住環境」の合致性

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
象徴となる 景観	<input type="checkbox"/> 江戸城の遺構（濠や河川）等の水と緑を活かした景観形成（都市の価値） <input type="checkbox"/> 千代田区の象徴的拠点 <input type="checkbox"/> 歴史的に継承されてきた空間と最先端の都市景観形成との調和 <input type="checkbox"/> 眺望を楽しむ多様な視点場 （外濠・内濠・見附跡／行幸通り／皇居外苑等の象徴的な公共空間） （大規模開発に伴う公開性の高いビューポイント）
「文化」と まちづくり	<input type="checkbox"/> 有形・無形の文化（都市形成の中での「人の思い」「活動」） <input type="checkbox"/> 更新時期の建物や街区の歴史、人の思いや営みを尊重し、つなぐ地域らしさ （再生すべき昔ながらの文化をどのような形で残していくのか等） <input type="checkbox"/> 歴史的な空間や建造物、まちなかの小さな歴史・文化資源（稲荷等）
界索性	<input type="checkbox"/> まちの魅力・アイデンティティの詰まった規模感 （電気街、スポーツ用品店街、楽器店街、書店街など） <input type="checkbox"/> 区界を超えて連坦するまちの個性が融合し、高度な機能連携やエリアの回遊性
多様性と 界隈の 新たな魅力	<input type="checkbox"/> 関係人口＋質の高い体験型観光都市づくり（ICT 活用） <input type="checkbox"/> 外国人にも楽しんで知ってもらえるサイン（QRコード等）（まちの歴史、江戸の資産等） <input type="checkbox"/> ナイトエコノミー（都） <input type="checkbox"/> MICE ニーズ + アフターコンベンション機能
整備・開発に あわせた 景観形成	<input type="checkbox"/> 電線類地中化、緑化 <input type="checkbox"/> 老舗企業や書店街等の家業の継承、特徴的なエリアイメージを形成する街区の継承 （容積率売買の検討、大学との連携等の全国に先駆けた取り組み）
景観形成の 法制度	<input type="checkbox"/> 東京都景観計画、美観地区（旧） <input type="checkbox"/> 景観行政団体（地域特性に応じた景観形成に向けた計画・ガイドライン）

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

景観づくり 目標：まちの個性や魅力を活かした、愛される景観に

主な成果	今後の論点
<p>関係主体との対話と協働に基づく景観指導と景観まちづくり重要物件の指定及び支援などにより、良好な景観形成を図りました。</p> <p>開発事業も契機としながら、まちに存在する景観資源を保存・活用・創出し、まちの風格や歴史性を継承するための取組みを推進するとともに、緑の確保、賑わい空間の創出を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none">◇歴史的な空間や建造物の活用、緑・水辺空間との連携◇まちの成り立ちや生業の集積など地域の文化・文脈の承継と錬磨◇史跡・神社・稲荷等まちなかの歴史的・文化的資源を活かした界隈づくり◇祭礼やイベントなど人の活動を景観資源として活かせる道路や公共空間のあり方◇都市におけるわかりやすいサイン表示の推進◇屋外広告物規制・誘導と連携した景観形成◇都市の進化や国際化に対応した新たな景観創出のあり方

●改定の視点

都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈

- ◇歴史的遺構や文化的遺産の顕在化と継承、創造的活用
- ◇クリエイティブな活動の場づくり（文化・芸術、健康・スポーツ等）
- ◇界隈の味わいやまちの文脈、ものがたりを感じるまちづくりの展開

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

歴史と先進性が共存・融合する都心の風格をより際立たせ、味わいや風情、多様な生活と文化を感じられる界隈を伝えていく

- 都心の風格の継承・創造
- 地形の特徴や地域資源等を活かした景観の保全、形成
- 界隈の個性を活かした魅力再生・継承

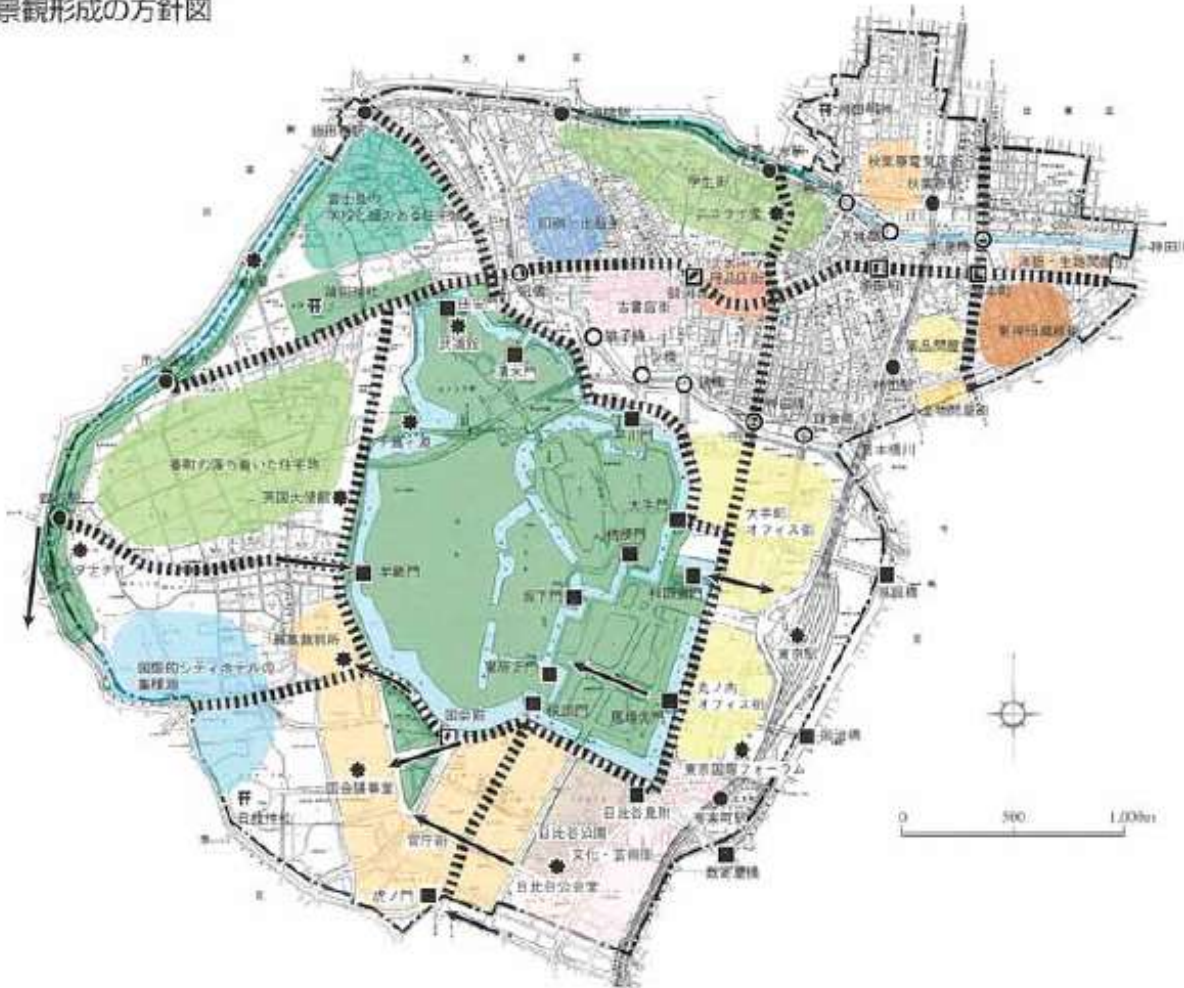
3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 まちの個性や魅力を活かした、愛される景観に

方針1：歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間を活かし、質の高い景観を守り、つくる

方針2：多様な地域ごとの個性を活かし、一体として美しい眺めをつくる

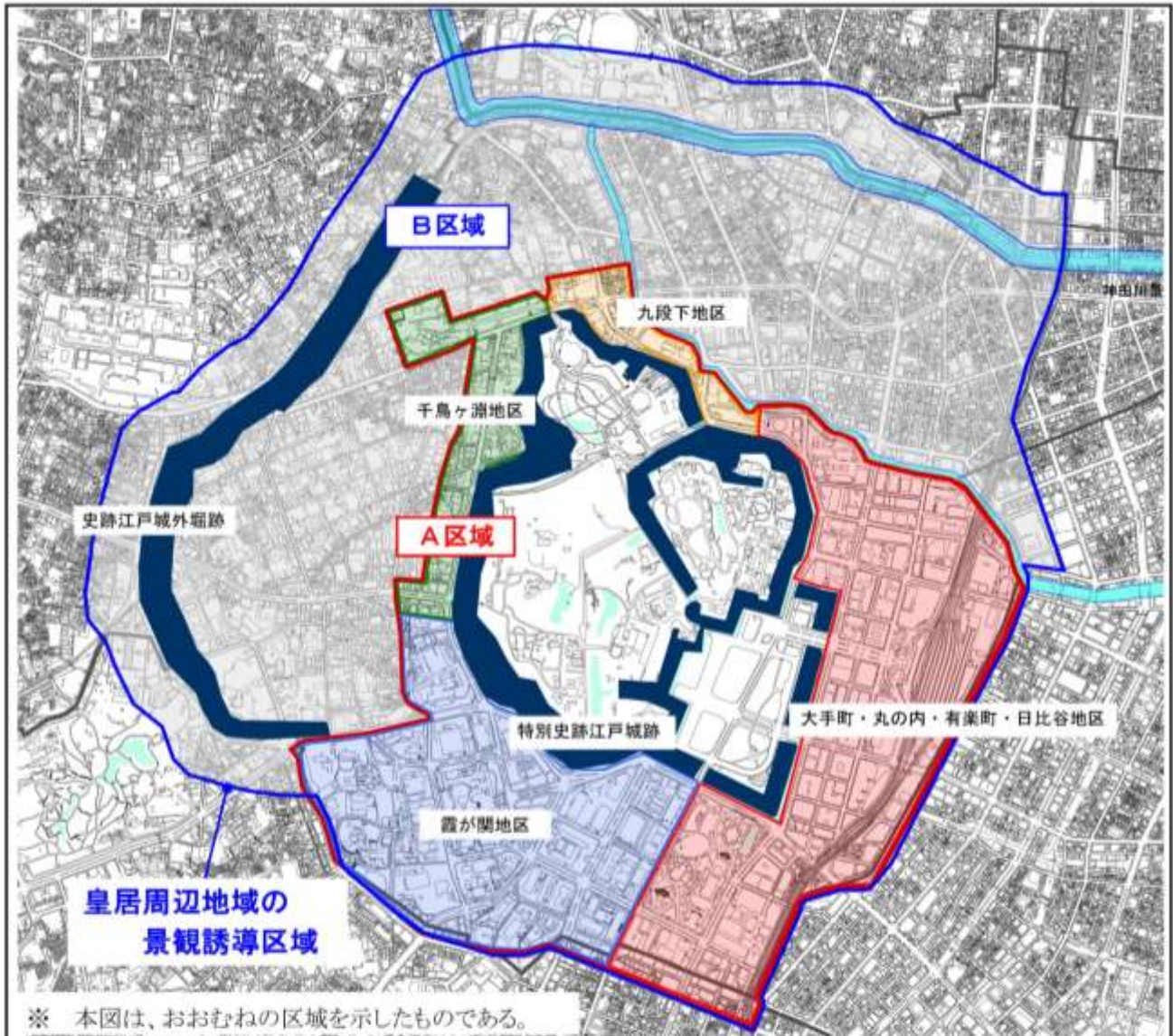
景観形成の方針図



区分	整備方針
● 多くの人に親しまれている建物	歴史的・文化的建造物を守るとともに、景観資源として周囲の景観形成に活用します。
■ 大規模緑地	
■ 河川・濠	保全するとともに、周囲の景観形成に活用します。
■ 主要な神社	
■ 城郭御門・門跡	
○ 主要な備	改修の際は地域にふさわしいデザインとし、周囲の景観形成に活用していきます。
● JR駅	周囲の景観との調和に配慮し、シンボル性をもたせた整備または建替えを促進します。
□ 特徴的な交差点	
■■■■■■■■■■ 景観上骨格となる主要な道路	景観資源として周囲の景観形成に活用します。
→ 正面にランドマークがあり、遠方まで見える見通しの良い通り	
●●●●●●●● 特徴ある土地利用が集積した地区	地域毎の雰囲気・たたずまいを活かした景観形成を進めます。
■ 美観地区	建屋周辺にふさわしい、緑豊かで落ち着いた街並みを維持するよう、「ガイドプラン」の作成を推進します。
--- 区界	

(参考図①) 皇居周辺の風格ある景観誘導の区域 (東京都景観計画)

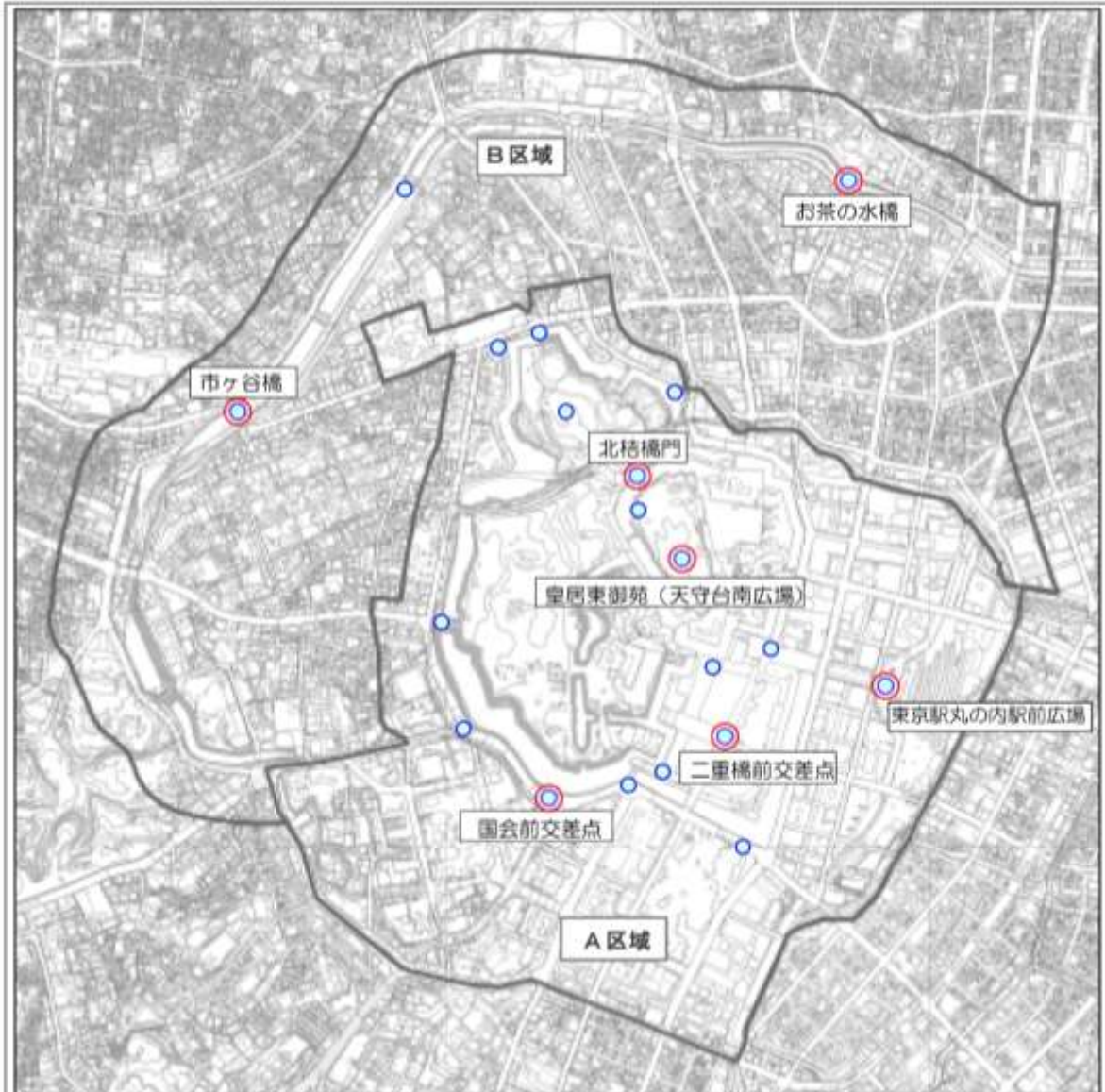
図表3-24 景観誘導区域の地区区分



A区域	<p>特別史跡江戸城跡を中心に、旧美観地区区域を基本として設定し、更に、その中から景観特性を踏まえて以下の4地区に区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大手町・丸の内・有楽町・日比谷地区 ・ 霞が関地区 ・ 九段下地区 ・ 千鳥ヶ淵地区
B区域	<p>史跡江戸城外堀跡の水と緑をはじめ、地域特性を一体的に生かして景観形成を推進していく観点から設定</p>

(参考図②) 主な眺望点 (東京都景観計画)

図表3-26 主要な眺望点



※本図は、おおむねの区域を示したものである。

※○は主要な眺望点

○は特に風格ある景観を望むことができる眺望点及び特に配慮すべき外濠景観を望むことができる眺望点 (B区域における協議対象選定のための眺望点を兼ねているもの)

特に重要な眺望点の種別	眺望点
特に風格ある景観を望むことができる眺望点	皇居東御苑 (天守台南広場) 二重橋前交差点 北桔橋門 国会前交差点 東京駅丸の内駅前広場
特に配慮すべき外濠景観を望むことができる眺望点	お茶の水橋 市ヶ谷橋

分野 4

道路・交通体系と快適な移動環境の整備

1. 論点

○次世代のモビリティと道路ネットワーク形成を連動させて示すべき戦略のイメージ

- ・圧倒的に評価の高い交通利便性を強みとして活かすまちづくりのイメージ
- ・次世代のモビリティと道路・交通の関係
- ・公共空間としての道路のあり方、使い方
⇒将来見通し（イメージ）+ どの段階でどのような準備をしていくか

○エリアごと実情に合わせた移動マネジメントの可能性

- ・拠点エリア、神田、麹町・番町等

○自動運転等の技術革新の進展を見据えたエリア、空間の考え方

※「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っています。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・歩道空間の整備や歩車分離の推進など、道路の改善に向けた取組みと空間のあり方
- ・まちの機能更新に際しては、歩行者空間の確保を進めるべき。
- ・交通弱者が使いやすい街中の移動手段の検討（新たな技術、バリアフリーの視点）
- ・新たな移動手段と道路環境整備のあり方
- ・駅まち一体開発の視点
- ・電柱の地中化を早急に進めてほしい

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
全体戦略 とマネジメント	<input type="checkbox"/> 次世代モビリティの方針 (+ 土地利用計画・交通計画) <input type="checkbox"/> 地区レベルの将来的な交通のあり方 (道路空間再編、自動運転区間導入の是非等) (自動車交通量の変化、自動運転などの技術革新、超小型モビリティの普及の進展、多様な移動モードのネットワーク化などへの対応)
交通結節点 の移動環境	<input type="checkbox"/> 駅前空間の立体的な再生、道路・駅・まちが一体となった都市基盤 (道路上空の歩行者専用デッキ、広場、サンクンガーデンなど)
ひと優先の 道路空間の 安全・快適性	<input type="checkbox"/> ひと優先のまちづくり、みちづくり <input type="checkbox"/> ウォークアブル + ウォーキングルート (歩ける屋外空間の環境) <input type="checkbox"/> 電線類地中化
進化する 交通モード	<input type="checkbox"/> ICT を介して多様な交通モードがシームレスにつながる移動 (Maas) <input type="checkbox"/> 安全で快適に自転車を利用できるまち <input type="checkbox"/> 短距離移動に適した小型モビリティ等の新たな交通モード + 既存交通ネットワーク <input type="checkbox"/> シェアリング (自転車、小型モビリティ等) <input type="checkbox"/> 舟旅 (舟運) <input type="checkbox"/> 多様な機能を踏まえた道路整備の方針 + 運用 <input type="checkbox"/> 区界を超えた自動運転ルートを想定した他区との空間的つながり
開発等に伴う 道路整備	<input type="checkbox"/> 開発等と連携した狭幅員区道の地中化推進
変化する需要 と課題の対応	<input type="checkbox"/> 駐車実態や地域特性を踏まえた駐車場のあり方 (駐車場整備計画、駐車施設の集約化等) (現状及び欧米を含めた事例研究・・・カーシェア駐車場への転換等) <input type="checkbox"/> 駐車問題の多様化 (観光バス、荷捌き車両、自動二輪車等)
合意形成	<input type="checkbox"/> 道路整備に向けた合意形成手法

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

道路・交通体系整備 目標：歩行者と環境にやさしいみち、駅に

主な成果	今後の論点
<p>駅の改修や駅周辺の開発に併せて駅前広場や自由通路の整備、地下空間のネットワーク化やエレベーター等の整備によるバリアフリー化を推進しました。また、歩道や交通安全のための設備の整備を進めるとともに、電線類地中化を進めました。</p> <p>さらに、自転車利用の推進を目指して、コミュニティサイクル（シェアサイクル）事業を開始し、周辺区も含め広域的な運用を実現し、都心部を中心としたシェアサイクルの普及に貢献しました。</p>	<p>◇公共交通機関の更なる利便性向上と自動車の保有率の低下や、三環状道路など広域的な道路ネットワークの整備の進展に伴う区内自動車交通量の減少傾向などを踏まえた道路空間のあり方や駐車場の適正配置</p> <p>◇超高齢社会の到来、障害者等の社会参加の推進、インバウンドのさらなる増加等を見据え、ユニバーサルデザインにも配慮した移動しやすい環境の整備</p> <p>◇シェアリングエコノミーの進展や自動運転技術の進歩に伴う次世代の移動環境のあり方</p> <p>◇都市計画道路の整備・見直しの方針</p>

●改定の視点

交通結節機能と移動ネットワーク

- ◇安全・快適で分かりやすい交通結節機能の強化（高齢化や国際化の進展への対応）
- ◇交通モードの多様化への対応と最適化
- ◇都心における自動車利用の動向をふまえた道路空間・駐車施設と交通のマネジメント

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

都心の移動をより快適で楽しくするしかけや、多様な交通モードをつないで利便性の高い交通結節機能を進化させていく

- 広域的・骨格的な移動軸の強化
- 都心生活を支える交通結節機能の充実と多様な交通モードの展開
- 誰もが快適に移動できる環境の創造
- 技術革新や街区の実情に対応した高度で柔軟な交通と物流のマネジメント

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 歩行者と環境にやさしいみち、駅に

方針1: だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくりを進める

方針2: 都心の活動と生活を支える公共交通機関の整備と利用促進により、環境負荷を軽減する

方針3: 道路のもつ多様な機能に応じて体系的に道路を整備する

道路・交通体系整備の方針図



区 分		整備方針
広域的な交通を担う道路	主要幹線道路	整備 未整備
	幹線道路	整備 未整備
	整備・改良については、国・都の各整備担当機関に事業推進を要請します。	
生活に密着した地区内の交通を担う道路	地区内主要道路	整備 未整備
	主要区画道路	整備 未整備
	地区内の主要な路線として、安全な「交通軸」、快適な「生活軸」、緑とゆとりのある「環境軸」など多様な機能を備えるよう整備します。	
	歩行者の利用も多いため、通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、地域のコミュニティ空間としても機能するよう整備します。	
区画道路		歩行者の安全性に特に留意して整備します。
●	JR駅	シンボル性や景観にも配慮した整備を進めます。
●	地下鉄駅	高齢者や障害者を含めてだれもが安心して気軽に利用できるよう、駅舎等の施設の整備・改善を関係機関との連携により進めます。
— — — — —	区界	

分野 5

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

1. 論点

- 人生 100 年時代を迎える社会とまちづくりのあり方
 - ・若い世代にとっての社会展望を包含したまちづくりのイメージ
 - ・各分野のまちづくりの基本事項として理念を組み込んでいくための方針の示し方
- “ヒューマンセントードデザイン”の概念を念頭に置いたまちづくりの展開イメージ
- 多様性と障壁を感じない人のつながり、交流とまちのあり方

※「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・街中でのユニバーサルデザインに向けて、十分な歩行空間の確保が急務である
- ・拠点である駅から駅の間、誰もが休めるような場所の確保を進めるべき
- ・駅やまち中のバリアフリーの具体策の提示

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」（案）に至る検討の中の主な論点	
基本的な概念	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインの都市環境整備 ⇔ ヒューマンセントードデザイン
若い世代・ファミリーのニーズ	<input type="checkbox"/> 安心して子どもを産み育てることができる環境 <input type="checkbox"/> 子どもの健やかな成長を支える環境（子どもの居場所・遊び場等）
健康とまちづくり	<input type="checkbox"/> 健康づくりを支える環境、気軽に身体を動かすことができる環境 <input type="checkbox"/> 医療・介護を支えるまちづくり
多様性のなかの安全確保	<input type="checkbox"/> 災害時の外国人や多くの滞在者の安全確保、避難等

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

福祉のまちづくり 目標：だれもが暮らしやすく、活動しやすいまちに

主な成果	今後の論点
<p>交通バリアフリー基本構想に基づき、駅及び駅周辺のバリアフリー化を推進しました。バリアフリー法や関連条例に基づき、建築物のバリアフリー化を進め、誰もが利用しやすいまちづくりに貢献してきました。さらに、区では、千代田区福祉のまちづくりに係る共同住宅整備要綱を定め、全ての共同住宅についてバリアフリー化を支援しています。</p> <p>また、セミフラット化、電線類の地中化など道路のバリアフリー化を進めるとともに、開発事業と連携したバリアフリールート整備などまちのバリアフリー化を推進しました。</p>	<ul style="list-style-type: none">◇超高齢社会の進展や障害者等多様な人々の社会進出に対応したユニバーサルデザインの都市環境整備◇区民の健康づくりや地域包括ケアシステムを支えるまちづくり◇安心して子どもを産み育てられ、子どもの健やかな成長を支える施設整備の誘導

●改定の視点

障壁のない多様な活動と交流環境

- ◇高齢者、障害者の暮らしやすいまちづくり
- ◇多様な交流で多彩な力を活かす環境の創出

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

都心ならではの豊かな価値の創造にむけて、ひと、まち、活動の多様性を活かせるユニバーサルな環境を広げていく

- 人生 100 年時代に住み続けられる都心の価値の向上
- 人の多様性に対応して、障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくりを推進

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 だれもが暮らしやすく、活動しやすいまちに

方針1：だれもが社会に参加し、いきいきと暮らせるよう、活動しやすいまちをつくる

方針2：高齢者や障害者も安心して住み続けられる住宅や豊かに暮らせるような福祉・保健・医療・教育施設を整備・充実する

分野 6

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

1. 論点

- 首都直下地震や大規模な都市型水害の発生を想定して、首都東京において、フロントランナーとして千代田区が果たすべき役割
- 都心の強靱性をどのように評価すべきか
- 老朽化が進む都市インフラ・市街地の更新のあり方
- 都市機能や滞在人口が高度に集積する都心ならではの復興事前準備の視点と枠組み

※「中間のまとめ」（案）への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・特定緊急輸送道路の指定の有無によらず、緊急輸送の実態を想定し、重要度の高い道路沿道において積極的に沿道耐震化を進めてほしい。（明大通り、病院等の集積地までのアクセス）
- ・耐震化の具体的な手段
- ・地域別の視点（災害に強い地域、そうでない地域）

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」（案）に至る検討の中の主な論点	
多様性のなかの安全確保	<input type="checkbox"/> 地域ごとの人の滞在の状況、帰宅困難者等への対応 <input type="checkbox"/> 災害時の情報発信等（インバウンドの増加等への対応）
都心機能と都心生活の継続性	<input type="checkbox"/> 自立分散型エネルギーシステム（エネルギー面の防災力） <input type="checkbox"/> ライフライン等都市基盤の強靱性、バックアップ機能 <input type="checkbox"/> 地域継続性 <input type="checkbox"/> 災害時のタワーマンションでの生活維持対策（LCP） <input type="checkbox"/> 事前復興や業務継続の視点に立った防災・減災
まちの特性と安全性	<input type="checkbox"/> 高経年マンションの耐震化・機能更新とまちづくり <input type="checkbox"/> 共同化・再開発など、まちづくりを通じた都市機能の更新 <input type="checkbox"/> 想定浸水区域内の地下街等における浸水防止対策
災害時のコミュニティカ	<input type="checkbox"/> 共助のコミュニティ <input type="checkbox"/> 高齢化等に対応した災害対応 <input type="checkbox"/> 産業界との防災コンソーシアム
事前の備え	<input type="checkbox"/> 迅速な大規模震災復興のための事前準備

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

防災まちづくり 目標：災害に強く、安心・安全に暮らせるまちに

主な成果	今後の論点
<p>建築物共同化や開発諸制度等の活用により、老朽市街地の機能更新を進め地域の防災力向上を図りました。また、耐震化の普及・啓発や耐震診断・耐震改修への助成等を通じて、建築物の耐震化が進展しました。</p> <p>大手町・丸の内・有楽町地区では、都市再生特別措置法に基づく都市再生安全確保計画の策定し、ハードソフト両面で地域の防災対応力の向上を図りました。</p> <p>マンションを核とした地域防災力の向上（マンション防災計画等）や事業者の事業継続計画（BCP）の策定支援、災害対策用物資の備蓄、帰宅困難者対策の推進による地域の業務継続性の強化を進めてきました。また、震災復興マニュアルを策定し、被災後の都市復興の手順を整理しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇高経年マンションや中小老朽業務ビルの耐震化、機能更新の推進と一体のまちづくり ◇エネルギー等ライフライン面での都市基盤の強靱化等、業務継続性・地域継続性の向上 ◇きめ細かい被害想定に基づく復興事前準備としてのまちづくり計画の必要性 ◇地域特性により異なる人々の滞在状況の相違をふまえた帰宅困難者対策を支援する開発誘導 ◇特定緊急輸送道路沿道の耐震化の推進 ◇障害者、高齢者、インバウンド観光客等の災害時要配慮者などひとの多様性を踏まえた防災まちづくり ◇エリアごとの安全確保対策、共助体制の強化と連携するエリアマネジメント

●改定の視点

災害対応力(防災力・対応力・継続性)

- ◇都心の高度な都市機能の継続性の確保
- ◇外国人を含む多様な滞在者の安全確保・適正な避難誘導
- ◇迅速で的確な災害対応とその事前準備

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

大規模災害の発生を前提に、都心に滞在する多くの人の生命、生活を守り、首都機能・都心機能、都心生活の継続性を高め、備えていく

- 減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保
- 大規模災害時の都心の都市基盤、中枢ネットワークの継続性の確保と活用
- 高度な都心機能の自立性・継続性の確保
- 復興事前準備の確立

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 災害に強く、安心・安全に暮らせるまちに









方針1：震災時に壊れにくい、燃え広がらないまち、水害などに強いまちをつくる

方針2：災害時の避難、防災活動が円滑に行えるまちをつくる

方針3：災害時の代替となる施設・手段の確保とともに、速やかで適切な復旧・復興を進める

防災に関わる都市整備方針図



区 分	整備方針	
 避難場所		
 避難所	適切な配置を進めるとともに、機能を充実させていきます。	
 一次集合場所		
 備蓄倉庫	区間人口に対応できるよう、企業との連携のもとに整備を進めます。	
幹線道路	 国道	震災時における救援救護活動に必要な緊急車両の走行帯を確保するため、他の道路に先駆けて、道路上の障害物の除去や応急補修などを行います。
	 都道	
	 区道	
 木造住宅等の集積地区	地区計画制度等の活用等による建替え促進など、積極的な耐火性・耐震性の強化を図ります。	
 大規模緑地	延焼防止や避難場所としての機能を維持・向上させます。	
 河川・濠	大雨等による水害を防ぐため、河川施設や下水道施設の整備拡充を、関係機関との連携により推進していきます。	
 区界		

分野7

環境と調和したスマートなまちづくり

1. 論点

- 首都東京におけるフロントランナーとして、皇居を中心とした緑と水を骨格として都心の豊かな環境に恵まれた千代田区が果たすべき役割
(高度な都市機能、滞在人口の集積とエネルギー消費)
- 大規模災害時も念頭に置いた地域のエネルギーデザイン
 - ・地域特性に応じた展開のイメージ
(面的なエネルギー利用＋マネジメント、地域冷暖房、未利用エネルギー)
- 資源循環を包含した環境負荷低減のためまちづくりのテーマの広がり
例) ZEB
- 未来のスマートな都心のイメージと目標となるステップ、取り組みの方向
 - ・Society5.0 (ICT、AI 等が高度に進化し、実装された社会) における都心像をどのようにイメージし、マスタープランに組み込むべきか
 - ・膨大なデータを活かした都市の様々な活動、資源利用等の最適化 (IoT+AI)

※「中間のまとめ」(案)への区民等の意見募集・公聴会でいただいたご意見の速報であり、詳細なご意見の取りまとめについては今後も引き続き行っていきます。

- ・分野を超えた連携の視点を強化
- ・様々なプレイヤーが関わっていきやすいオープンな環境づくり
- ・ICTによるまちの連続性の向上
- ・省エネ性能・環境性能を増した再開発

(参考) 関連キーワード ※「中間のまとめ」(案) に至る検討の中の主な論点	
環境技術と モデル都市	<input type="checkbox"/> 低炭素化都市づくり (脱炭素) <input type="checkbox"/> 多様なライフスタイルと低炭素化の調和 <input type="checkbox"/> 屋上・壁面緑化+ゼロ・エネルギー・ビル (ZEB)
共生と 生物多様性	<input type="checkbox"/> 自然との共生、生物多様性
居心地の よい空間	<input type="checkbox"/> 夏に涼しい空間 (クールスポット) <input type="checkbox"/> 清潔感のあるまち
地域の エネルギー	<input type="checkbox"/> 地域エネルギーデザイン (面的エネルギー、再生可能性のポテンシャル、熱負荷の特色等の可視化) (エネルギー負荷が高い医療施設等が集積している地域の特性) <input type="checkbox"/> エネルギーの自立分散化推進による地域継続性 <input type="checkbox"/> 地域のエネルギーインフラの活用
次世代の 社会システム	<input type="checkbox"/> Society5.0 を実現するプラットフォーム (エネルギーバリューチェーン、スマートフードチェーン、スマート生産システムなど) (G 空間 (地理空間情報システム) シティ) ※科学技術イノベーション総合戦略 2017

2. 『中間のまとめ』（案）からの関連事項の抜粋

※千代田区都市計画マスタープランの改定について『中間のまとめ』（案）〔2019.11.5公表〕

●これまでのまちづくり（主な成果と論点）

環境と調和したまちづくり 目標：次世代に継承する、地球環境に配慮したまちに

主な成果	今後の論点
<p>「地球温暖化対策条例」、「環境モデル都市」、「千代田エコシステム（CES）」など先導的な環境まちづくりを展開してきました。</p> <p>千代田区では、業務部門の二酸化炭素排出量が特に多いことから、事務所ビル等の機能更新の際に低炭素化を加速するため、「建築物環境計画書制度」を運用し、一次エネルギー消費量の削減を推進してきました。また、開発と連携して地域冷暖房供給エリアを拡大してきました。</p> <p>さらに、開発に併せ、生物多様性に配慮した緑の空間の創出を図るとともに、皇居や外苑濠の水・緑と調和した広場の整備やお濠の水質の浄化に資する取組みなどを推進してきました。</p> <p>また、保水性舗装、屋上・壁面緑化、高反射率塗装、遮熱対策等を進めるとともに、開発に伴い公開空地等の連携による風の通るみちの創出などヒートアイランド対策を推進しました。</p>	<p>◇ESG 投資の動向を取り入れた都市づくり</p> <p>◇地域継続性を強化し低炭素社会を推進する、面的エネルギー利用の拡大や、再生可能エネルギー、未利用エネルギーの活用等、地域のポテンシャルに応じた自立分散型の地域エネルギーデザイン</p>

●改定の視点

ひと・モノ・情報をつなぐスマートな都市基盤

- ◇環境・エネルギー基盤と未利用・再生可能エネルギーの効果的活用
- ◇世界都心にふさわしい次世代の高質な都市機能・都市基盤・環境性能を持った機能更新

●まちづくりの目標と強化のポイント

目 標

エネルギー利用を起点に、移動、シェア、ひとのつながりへ、次世代のスマートな都心の社会基盤を構築していく

- エネルギーの効率的な利用の促進による経済活動と環境配慮の両立
- 地域の特性に応じたエネルギーデザインの展開
- 進化する ICT 基盤の上で展開するスマートな都市基盤の形成

3. 現行マスタープランの目標と方針（参考）

【目標】 次世代に継承する、地球環境に配慮したまちに

方針 1：限られた資源を大切に、省エネルギー型のまちを目指す

方針 2：地球にやさしく鳥や昆虫などが棲める自然環境を回復させるとともに、人が健やかに暮らせるための環境を守る